

金沢みどりライオンズクラブ設立40周年記念演奏会

金沢交響楽団

第75回定期演奏会



指揮
山下一史



ヴァイオリン
坂本 久仁雄



チェロ
大澤 明

2025.6.29 (日)

14:30開演 (14:00開場)

金沢歌劇座

ブラームス

ヴァイオリンとチェロのための
二重協奏曲 作品102

ドヴォルザーク

チェロ協奏曲 作品104

ゲストコンサートマスター 坂本 久仁雄

【入場料】18歳以上1,000円／18歳未満 500円(未就学児無料・当日券あります)

主催／金沢交響楽団

後援／北國新聞社・テレビ金沢・MRO北陸放送・金沢みどりライオンズクラブ・金沢市・金沢教育委員会

金沢交響楽団ホームページ <https://kanazawa-so.jp/> 実行委員会:090-2836-0194(上田)

チケット取扱い 石川県音楽堂チケットボックス・MPC楽器センター金沢・金沢楽器



指揮 山下 一史

1977年桐朋学園高校音楽科に入学。チェロを井上頼豊氏に、指揮を尾高忠明、小澤征爾、秋山和慶、森正の各氏に師事。1982年「第17回民音指揮コンクール」で奨励賞を受賞。

1984年桐朋学園大学を卒業後、ベルリン芸術大学に留学、1986年デンマークで開かれたニコライ・マルコ国際指揮者コンクールで優勝。

1985年12月からカラヤンの亡くなる1989年までアシスタントを務めた。1986年、ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の演奏会で、急病のカラヤンの代役として急遽ジーンズ姿のまま「第九」を指揮し、話題となる。その成功以来、ザルツブルク・フィングステン音楽祭でカラヤンのスタンバイ指揮者として契約。以後着実にヨーロッパでの実績を重ね、1993年から1998年までヘルシンボリ交響楽団の首席客演指揮者を務めた。

日本国内では1988年「若い芽のコンサート」でNHK交響楽団を指揮してデビュー。オーケストラ・アンサンブル金沢プリンシパル・ゲスト・コンダクター（1991年～1993年）、九州交響楽団常任指揮者（1996年～1999年）を歴任。また、大阪音大ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団常任指揮者（2002年～2008年）を務め、2005年秋には、新国立劇場より松村禎三《沈黙》公演が招待され、東京の音楽界にも衝撃を与えた。2008年4月より同団名誉指揮者就任。



ヴァイオリン 坂本 久仁雄

武蔵野音楽大学卒業。卒業後、アメリカ・ウィスコンシン州立大学に留学、その後ノースウェスタン大学大学院及び同大学ディプロマコースを修了。卒業後、シカゴ・シンフォニエッタにて活動し、1994年よりオーケストラ・アンサンブル金沢ヴァイオリン奏者。

オーケストラ活動の傍ら、ソロ・室内楽の分野にも活動の場を拓けている。



チェロ 大澤 明

富山県富山市出身。5月生まれB型。京都市立芸術大学音楽部にて故・黒沼俊夫 上村昇両氏に師事。1984年～1992年 毎夏カナダのヴィクトリアの音楽祭 ニューヨークにてジュリアード音楽院のハーヴェイ・シャピロ氏に師事。1984年～1986年 フィレンツェのケルビーニ音楽院にてイタリア四重奏団のフランコ・ロッシ氏に、またローマでイ・ムジチのフランチェスコ・ストラノ氏に師事。1986年 日本室内楽コンクール弦楽四重奏部門にて斎藤秀雄賞受賞。1986年～1992年 神戸室内合奏団ソロ奏者。1993年8月 オーケストラ・アンサンブル金沢に入団。1998年 故・岩城宏之氏とショスタコーヴィチの第1番の協奏曲を共演。1983年1992年 1997年 バッハ/無伴奏チェロ組曲 連続演奏会。1996年 元イ・ムジチのコンサートマスター、フェリックスアーヨ氏と共演。アルバンベルク四重奏団のギュンター・ピヒラー、ヴァレンティン・エルベン氏に薫陶を受け、2016年にはイタリアの巨匠マリオ・ブルネッロに招かれ、イタリアにてチェロアンサンブルの演奏会を行う。